

## やってよかった。お庭診断

お庭の診断に多数申し込みいただいてありがとうございました。募集から今月に至っても依頼が多く、とても勉強になる日々が続きました。

実は最初、診断というのをしているんだらうか？

とても悩みました。

しかも有料でということになるとこちらにも責任があります。

色々な方に相談をしてみると、有

料、無料に関わらずプロの目で診てもらって安心をしたいという言葉が多く頂きました。

とは言え、責任を持ってやるには多少なりともお金を頂いた方がよいと思い、これも相談したところ、無料で適当にされるより、いくら払ってもプロの目で診てほしいということでしたので、このような企画をさせて頂くことになりました。

私の最初の不安がすっ飛ばぐらい多くの皆様が樹木の虫や病気、施肥の仕方等色々疑問をお持ちになりながらどこにどのように質問してよいかわからないまま過ごされている現状がわかりました。

この仕事をしていて如何に自分のことだけしか考えていなかったか。

大変反省をしております。私ももっともっと勉強し皆様の疑問に簡潔に答えられるようにしたいと思います。

その中で多かった質問ですが、

①樫、ばらその他のうどん粉病、すすびょう煤病の退治方法



千代田園芸社の石倉です。

②樹木が枯れてしまった理由また元気に育っていない理由（相変わらず鉄砲虫の被害も多い）

③剪定の時期と剪定方法（予想外に育ってしまった樹木の対処法）

④コニファー類の処理（枯れ、傾き、剪定方法、伐採等）

⑤庭のどこを改善したら少ない費用でより良く見えるようになるか。 などです。

例えば、煤病などは、葉や枝、幹などの表面が黒いすすの様なもので覆われてしまうもので、美観が損なわれるだけでなく、葉が煤病で覆われると光合成が阻害されるため、植物の生育も悪くなります。

ちょっと知識がある方なら解ることなのですが、この業界の使命として伝え切れてないことだと感じました。

ひき続き申し込みを受け付けますので、お気軽にご連絡ください。10キロ圏内ならお知り合いの方でお困りの方があれば、お伺います。

## 日本庭園ランキング連続8年1位の赤松が……

2011年も終わろうとしてますが、今年は久しぶりに金沢（兼六園）、京都（銀閣寺他）鳥取（足立美術館）と代表的な庭を回れたことがとても勉強になりました。兼六園に関して前々回のニュースレターで詳しく報告させていただきました。京都へはフェルメールの絵が3点来ていたので出かけました。



こんな絵を描かれる方です。

ついでに若いころから大好きだった銀閣寺に寄ってみました。10代の時あの銀紗灘、向月台を見て、なんて前衛的なんだろう。まるで抽象芸術だ。江戸時代にこんなもん造れる人がいたんだと衝撃を受けました。その後たびたび寄ってはいましたが、10年以上ご無沙汰しました。でも相変わらず向月台はそのまま、(当然ですが) うんうんと頷いてしまいました。

でもそこからがちょっと変わっていました。回遊していくと山際をのぼり高いところから建物も含め銀紗灘や向月台を見下ろせるようになっていました。前はなかった。変わることもあるんだよびっくりです。

もう一つ銀閣寺と同じほど衝撃を受けた場所がすぐ近くの法然院にあったので、それこそ35年以上ぶりに行ってみました。

そこにも砂でできた台があってそこに文様が書かれてあったのです。それも見たときは感動に震えたのですが、今回ないないどうしてとろついていると、ありました。

「ちっこいちっこい。こんなにちっこかったけ。」まるで印象が違うのです。若さってそんなものか。年をとって感性が鈍くなってしまったのか思いました。銀閣寺あたりはさすがに良く手入れされていました。

しかし平安神宮の松は一部において兼六園と同じ疑問を持つ手入れ法が取られておりました。

次に鳥取の足立美術館の庭について感じたことを書こうと思います。

足立美術館はまだ新しい(昭和45年開館)庭です。米国の日本庭園専門雑誌では日本庭園ランキング

連続8年(2003年から2011年)1位ミュージングリーンガイドでも3つ星をとっている素晴らしい庭園です。ここは10年ぶりくらいです。本当にふんだんなお金を使って惜しみなく手入れ



足立美術館の庭は、ミュージングガイドでも3つ星です。

をしているのがわかります。

全国いや世界中から大勢が観光に訪れるし、しっかり入館料も取って公共の兼六園とは違っています。隅々まで本当に隅々まで心配りされています。また手入れする人々のこの庭に対する愛情が伝わってきます。

ただ10年前赤松の手入れ法についてこのやり方でいいのかと疑問を持っていました。10年後どうなってしまうのだろうと。案の定赤松に関してはだらしなく(優しいのではなくだらしなく)なっていました。今年行った3か所とも同じ傾向がみられ、私ごときが心配するまでもなくこれが正しい手入れ法なのか。それとも私が危惧してる方が正しいのか見極めたいと思っています。

これに関しては逐次ほうこくいたします。

今年1年つたないニュースレターを読んでくださってありがとうございました。

来年もよろしく願います。